まち ひと しごと

Vol.68

奏 -KANADE

藤田　奏真 さん



倶知安から世界へ「世界で一番平和な剣」を届ける

古くから日本のおもちゃとして親しまれ、近年競技人口も増えているけん玉。

倶知安で奏-KANADEという自らの工房を構え、けん玉の製作を行っている藤田奏真さんは作り手としてだけではなく、プレイヤーとしてもフリースタイルけん玉世界2位の実力を誇る。中学生の時に友達が持ってきたけん玉に触れ興味を持ち、両親がヒラフで経営するピザレストランで練習をしていた時に偶然訪れた外国人観光客が披露した技を見て衝撃を受けた。

「当時の自分のイメージとは違い、技をどんどん決め、最後に自分の小指に玉をはめる自由さに衝撃を受け、そこからもっとけん玉の魅力に取りつかれていきました。」

その後もけん玉の腕を磨き続け、世界大会で準優勝に輝くなど確かな実力と、これまで20カ国以上でイベントや大会に参加している豊富な経験を生かし、けん玉の製作を行っている。

「活動を続ける中で、自分に一番合うけん玉はどんな形だろうという興味から製作を始めました。それと、けん玉の『けん』には剣や拳という説があり、『世界で一番平和な剣』を作りたいという自分の夢にも重ねて挑戦しています。倶知安では、さまざまな人たちが集まり、コミュニケーションが難しい中で、誰でも簡単にどこでもできるけん玉で一緒に遊ぶことで、言語や世代の違いをも超えて仲良くなれると考えています。」

藤田さんはけん玉製作の場に倶知安を選んだ理由をこう話す。

「倶知安は、世界を感じるエリアです。けん玉を広めるには生まれ育ったヒラフがとても適していて、日本のおもちゃであるけん玉を外国人に触れてもらい、倶知安から世界へ発信できると考えていて、けん玉を知らない人にも興味を持ってもらえるように、けんの部分に着物の生地や白樺の皮を埋め込むデザインも取り入れています。今は旭川の木で製作していますが、いずれは倶知安の木で作りたいと考えています。」

藤田さんは大きな夢としながらもこれからのまちづくりについても語ってくれた。

「倶知安から世界にけん玉を広めるために、まずはお店にけん玉を置いてもらう事や自分の工房を開放することで町の人に興味を持ってもらう。その中で、外国人にも興味を持ってもらえると、日本のおもちゃとして世界へと広めることができると考えています。そして壮大な夢ですが、市街地とは異なる羊蹄山とニセコ連峰に囲まれて広がる野菜と草原という倶知安の原点のような風景を生かし、倶知安の若者が力を合わせ新しい風を吹かせていきたいです。」

けん玉プレイヤー、そしてくっちゃん子として大きな夢を笑顔で語る藤田さん。その夢に向かう道を『世界で一番平和な剣』で切り拓くだろう。

※まち ひと しごとは不定期連載です